

#### Q4：防災教育をさらに推進していきたいが、どのような工夫があるか。

A：近年、地震、台風、集中豪雨、火災等の様々な災害が発生しており、今後さらに大規模な災害が発生する可能性も高いとされている。したがって、自らの安全を守る自助能力を幼い頃から継続的に育成していくために避難訓練等を実施することはとても重要である。さらに一步進んだ防災教育を行うには、災害が発生した際、地域住民同士による避難誘導や救助、ボランティア活動といった「共助」の視点に立った取組が考えられる。

以下に、防災教育を行う目的や、「共助」の視点に立って行われた防災教育の具体的な取組の例を紹介する。

#### 1 防災教育のねらい

- ねらい① 周囲の状況に応じ、自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成する。
- ねらい② 防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実を図る。
- ねらい③ 災害後の生活、復旧、復興を支えるための支援者となる視点を重視する。

##### ねらい①

- ・想定した被害を越える災害が発生した場合でも、児童生徒が主体性をもって自らの命を守り抜くために行動する態度を育成する。
- ・災害発生時に、自らの危険を予測し回避するために、災害に関する正しい知識に基づいて的確に判断し、迅速に行動する力を身に付け最善を尽くし「主体的に行動する態度」を育成する。
- ・児童生徒一人一人が「主体的に行動する態度」を身に付けることにより、地域の防災意識を高める。

##### ねらい②

- ・児童生徒の発達の段階に応じ、教科や特別活動など学校の教育活動全体を通じて、災害の原因や災害発生時の関係機関の役割、応急手当等、災害に関する正しい知識を習得させる。
- ・効果的な防災教育を推進するために、教科等の内容や特別活動等との横断的・総合的な関連付けを工夫して、各学校で策定する学校安全計画に位置付ける。
- ・様々な災害の発生に際し、登下校中の自宅、外出先など、いつ、どこで災害に遭っても対応できるよう指導の充実を図る。

##### ねらい③

- ・ボランティア活動等を通して、自他の生命や人権を尊重する心を養い、進んで安全で安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養う。
- ・ボランティア活動の意義等について理解させる指導を工夫し、命の大切さや助け合いの素晴らしさを実感できる教育を推進する。

#### 2 発達の段階に応じた指導内容

##### <小学校低学年>

- ・安全のためのきまり・約束を守ることや身の回りの危険に気付けるようにする。

##### <小学校中学年>

- ・災害の原因や事故の防止について理解できるようにする。
- ・自ら安全な行動をとれるようにする。

##### <小学校高学年>

- ・危険を予測し安全な行動ができるようにする。
- ・家族など身近な人々の安全にも気配りができるようにする。



##### <中学校>

- ・防災への日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。
- ・他者の安全に配慮し、自他の安全に対する自己責任感を育成する。
- ・地域の防災団体や防災活動について知るとともに、学校、地域の防災や災害時のボランティア活動等の大切さについても理解を深め、参加できるようにする。

児童生徒の発達の段階に応じて、小学校低・中学年では「自助」、小学校高学年から中学校にかけては「自助」に加えて「共助」の視点を身に付けるとともに、児童生徒一人一人が地域防災の力であることを段階的に理解できるよう指導することが大切である。

### 3 共助の視点に立った防災教育の取組例

#### 地域の消防団による出前授業

地域防災力の要である消防団員が、小・中学校を訪問し消防団の役割や意義、防火・防災の重要性を自らの体験談を踏まえて説明する。また、車両・資機材を見学したり、消火活動（放水）の実際を見学したりすることで、消防団の認知度向上を図るとともに将来的な人的地域防災力の確保が期待できる。さらに、地域をよく知る消防団員から学区内の災害が発生しやすい場所について話を聞くことで防災の意識を高めることができる。



地域の消防団員による出前授業の実際

#### 避難所運営や防災活動の体験

避難所を運営する疑似体験をすることで、支援者としての視点から災害を考えることができる。どのように工夫すれば年齢や性別、国籍が違う要支援者が過ごしやすい避難所になるのか、必要なボランティアはどのようなことがあるかなどを考えることで、命の大切さや助け合いの素晴らしさを実感できる。「共助」の視点から自分にできることは何かを考えるきっかけとすることができる。



避難所運営体験



土嚢作り体験

#### 防災教育教材の紹介

D I G	Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム) 誰でも企画・運営できる、参加型で簡単な災害図上訓練。
HUG	Hinanzyo (避難所) Unei (運営) Game (ゲーム) 静岡県で開発された、ゲーム感覚で避難所運営を学ぶことのできる教材。避難所に避難してきた人々をどれだけ適切に配置できるか、避難所で起こる出来事にどう対応するのかを疑似体験できる。
クロスロード	災害発生時に起こる様々な出来事等に関する問題に参加者がYESかNOで答え、互いの考えを交流し合うカードゲーム。
なまずの学校	小学生でも取り組めるカードゲーム。災害で発生するトラブルに対してアイテムカードで問題解決をしながら防災を学ぶ。
シャッフル	小学生でも取り組めるカードゲーム。「応急手当」「救援・救助」などの防災知識を楽しく見付けることができる。

各学校において「自助」の力を育成する避難訓練が充実してきている。今後はさらに発展させて、児童生徒が地域住民の一人として「共助」の視点を身に付けられるような取組が求められる。

#### 【参考資料】

- ・児童生徒等に対する防災教育の実施について（令和3年12月1日付け事務連絡） R03.12 文科省
- ・学校における防災関係指導資料 H25.9 県教委